

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2794800066		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム松原なごみ		
所在地	大阪府松原市東新町5-4-10		
自己評価作成日	令和元年6月20日	評価結果市町村受理日	令和元年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が希望に沿える様に、日々意見を取り入れ、レクリエーションやドライブや散歩などを実施している。 また野外でBBQを行い、1階2階の入居者のコミュニケーションを図っている。毎年、医療連携機関のバスツアーにも参加している毎月、地域で行っている公民館カフェに参加している</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新管理者とケアマネジャーが、前任者との引き継ぎが不十分な中で就任して1年強が過ぎ、今年3月に体制もようやく整ってきた。管理者をはじめ、グループホームでの経験が無い職員が多勢だが、管理者の方針に全幅の信頼を置き、事業所の理念「入居者様・ご家族様・職員また地域の方々全ての人々の尊厳を大切に」の下にまとめ、日々のケアに当たっている。しがらみのない人的環境の中で、全員が理想とするグループホームを作り出したいと意欲的である。管理者の経験から、レクリエーションに特に力を入れており、外出は職員が提案・検討し実施している。又、毎年医療機関との共同企画で、日帰りバス旅行を実地しており、今年も夏以降予定している。又、管理者の携帯電話番号を全家族に知らせ、何時でも連絡出来る連絡体制をとっており、家族より喜ばれて、要望等の把握と具体化に活用されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての人の尊厳を尊重するという理念に基づき、分かりやすく場所に掲示するとともに、出勤時に認知症への対応を常に振り返る様、心掛けています。	「入居者様・ご家族様・職員また地域の方々全ての人の尊厳を大切にすることを事業所独自の理念として、玄関と各ユニットに掲示し、職員間で共有して日々のケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々に、交流を図る為、イベント時には、パンフレットを配り、参加を促している。また、公民館カフェでも交流を図っている。	自治会に加入して色々な情報を入取し、利用者は、月1回公民館で行われるいきいきサロンカフェに参加して友人に会ったりしている。事業所でのバーベキューや納涼祭に近隣の人の招待をしているが、参加者は少ない。習字やピアノ・アロマ等のボランティアを月1回受け入れ、楽しい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	松原グループホーム連絡会があり、地域包括センターと連携を取り、公民館で認知症の人への理解やグループホームの概念など地域に向けて活動している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進委員会を開催し、家族と市職員で構成し、会議では利用者の状況やホーム内の出来事、行事などを出来るだけ、詳細に伝えている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されているが、町会長・民生委員・知見者等の不参加が多く、総じて出席者が少ない。従って会議内容も事業所報告が主となり、意見交換が少なく、意見をサービス向上に活かしているとはいえない。又今後、会議議事録で会議の内容を家族に公表することも検討を要す。	町内会長・民生委員へ重ねて会議への参加を要請すると共に、幅広く知見者へ参加を呼びかけて、会議を活かした取り組みを推進し、事業所が地域での認知症ケアの拠り所として認識されることを期待する。又会議議事録を各家庭に送付し、会議への理解と出席への足がかりとしてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会で、市職員、包括センターからの事業所の実情や相談、研修の情報など、意見交換をしている。	市の高齢介護課には運営推進会議時やグループホーム連絡会時に相談し、更新等の手続き時に指示を仰いでいる。ただ地域包括支援センターとの接点が余り無いので、情報交換面で不十分な点がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備しており、職員が観覧出来る様にしている。	昨年の介護保険制度改正に伴って、身体拘束適正化委員会を設置して運営推進会議時に開催している。又本年度より研修会を定期的実施して、身体拘束をしないケアをより深く理解し、実践に努めたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員に聞き取りや、入居者に施設長が一人一人毎朝、声掛けし、意見を聞き注意や防止を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がおり、職員間で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要説明事項説明書・契約書を用いて丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に随時報告している。また施設長の私用電話を家族に知らせており、意見のやりとり等行っている。	利用者・家族の要望は入所時に確認し、その後は面会時や運営推進会議時に相談に乗り、迅速に対応している。管理者の携帯電話番号を家族に知らせ、いつでも連絡してもらえる体制を敷いている。職員の利用者担当を決め、日々の生活状況や写真を毎月家族に送付し、意見・要望を聞き取る機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議・フロア会議を設け、職員が話し合う機会も設けている。	月1回の職員全体会議を夕方より行い、忌憚のない活発な意見交換が行われている。管理者は就任後1年だが、運営方針徹底に向けて十分な意見交換や提案を行い、意思統一を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と連絡・相談の連絡を取り、職員個々の実績など報告し把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを行いながら、資格の取得にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて、他の事業所と意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に面談を行い、本人・家族に詳しくグループホームへの理解をしていただき、不安が出来るだけないよう努め、アセスメントを行う要望など確認する様に努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、随時会社の電話や私用の電話にてお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を伺い、他職種からの意見を参考にした対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、ADLにより役割をもっている。 洗濯物を畳む等		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設のイベントに参加出来る様、電話で連絡し、本氏と家族が楽しんでいただける様、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームでは、面会が可能な限り、自由にさせていただいている。 地元の入居者様が多く、面会に来られている。	利用者の長期化や高齢化で、馴染みの人の訪問が段々と少なくなっているが、出来るだけ途切れないように、訪れやすい環境を整備しており、親族や友人が訪問している。家族の協力を得ながら、馴染みの喫茶店や美容院・スーパー等に行くことを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の協力が必要な場合、間に入るが、それ以外は自然と入居者同士が触れ合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、定期的にご連絡させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にアセスメントを取り、本人の暮らしや希望や意向の把握を努めている。困難な場合は、今まで生活歴や家族から情報を得て、本人の立場で考え、ケアを努めている。	入所時に利用者・家族とアセスメントして、本人の希望・要望を確認し、又生活歴の把握に努めている。入所後は本人との関わりの中で、話や行動・表情によって確認している。把握が困難な時には家族より情報をもらい、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本氏と家族に聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設長が本人にも、毎日聞き取りを行い、職員からも申し送り、状態の把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロー会議にて、必要に応じて家族、関係者とも話し合い、意見を取り入れ計画作成する様、努力している。	介護計画は、利用者・家族の要望、医師情報、3ヶ月毎のモニタリング等を基に、家族・ケアマネジャー・訪問看護師・職員によるケア会議で検討し作成している。計画は3ヶ月単位で見直し、変化があれば随時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を活用し、介護経過に残し、フロー会議などで情報共有し、モニタリングを行い、計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族ニーズに出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーへの買物や散歩コースに出掛け、知り合いの方との交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の提携医療機関についての説明をし、今までの本人のかかりつけの医の選択をしてもらい、本人・家族がどのような医療を受けたいかも、聞き取りを随時行っている。	かかりつけ医は入所時に利用者・家族とよく相談して決めており、現在は医療連携体制の下で、全員協力医療機関の医師となっている。内科は月2回の訪問診療、歯科は希望者のみ毎週往診を受けている。内科以外の受診は基本的に家族の同行としているが、不可能な場合には職員が同行して受診の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連絡を取り、日常の情報や気づきなど、申し送りを行っている。個々入居者が適切に看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時のマニュアルを整備し、入退院時の情報提供書・看護サマリー・介護サマリー・薬情の情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期入院などの重度化する前に、本氏・家族・医師・看護師・職員を交え本人の思いを考慮しながら、話し合いの場を設けている。	入所時に、重度化した場合の対応に関して事業所として出来る事、出来ない事を丁寧に説明し同意を得ている。重度化した場合には再度、家族・医師・看護師・職員で話し合い、家族の意向に沿った対応を再確認し、納得の行く支援に努めている。看取りの経験は未だないが、今後は対応していく方針で、研修も重ねて体制強化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当について、フローにて貼り出して、マニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の元、訓練を行っている。	年2回の消防署指導による訓練が行われている。訓練には地域の人の参加が得られておらず、施設が地域の福祉の中核として役割を果たす為に、是非参加を要請してもらいたい。	予期せぬ災害に備え、当所の立地・構造・利用者状況・職員体制を踏まえた災害対策を立て、それに応じたミニ訓練の実施を望む。地域の防災会議への参加、近在の地主への協力要請、運営推進会議での協力要請を行い、加えて備蓄・備品の数量・内容の充実に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念を念頭に置き、日々丁寧な対応をする様に、指導している。プライバシー保護マニュアルを整備し、いつでも観覧出来る様にしている。	利用者を人生の先輩と考え、尊厳とプライドを損なわないように、トイレへの誘導はそれとなく時間少し前に声かけし、風呂への誘導もさりげなく声かけする様子が見られた。接遇研修を行い、職員同士もお互いに注意し合える関係が出来ている。個人情報関係の書類は2階事務室の鍵のかかるロッカーに保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、聞くことを大切にし、本氏の自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本氏らしい、本氏自身のペースで、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問美容を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、食事後のおぼんを運んでいただくか、テーブルを拭いていただく。	メニュー・食材(3~4日毎)は業者より配達され、各階で職員がご飯・みそ汁と共に調理し、利用者は出来る範囲で参加している。外食はなかなか難しくなっているが、ファストフード店や寿司店に出かけたり、持ち帰りして楽しんでいる。バーベキュー等も行っている。職員は弁当持参と利用者と同じ物を摂る人がおり、食事介助しながら楽しいひと時を過ごしている。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体としては、食材業者に委託し、栄養士の管理の下、栄養バランス、量などの個々の状況に応じて、随時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々により、必要に応じて口腔ケアを行っている。 毎週、訪問歯科による衛生管理、指導も行っていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間やパターンがわかりやすい様に、排泄チェック表を設け、排泄パターンが把握しやすい様にしている。	排泄チェック表より個々の排泄パターンを把握し、時間少し前にそれとなく声かけし、自立に向けてトイレ誘導している。ほぼ自立の利用者の割合が高く、17人中10人がリハビリパンツとパッドで過ごしている。夜は2～3時間おきに見回り、安眠妨害にならないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の起床時の冷水や配茶の時間に食物繊維の多い飲み物や食べ物を提供したり、水分がより多く摂取できるような機会の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は指定している。入浴前は健康チェックをし、体調が優れない場合、他の日に柔軟に対応している。入浴を楽しんでいただける様に季節の入浴剤を使用している。	入浴は、体調に合わせて週2回を基本に午前中に支援している。湯は毎回入れ替え、入浴剤や季節の柚子湯・菖蒲湯も活用している。入浴拒否者には人や時間を替えて対応している。水虫にも注意し、入浴足マットを人毎に替え、入浴後は薬と乾燥で拡大を阻止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを尊重し、体調の変化を考慮して休息をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品については、処方時や変更時など、薬剤師や看護師に相談したりしている。職員にも周知させる様に介護記録にファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントで、本氏に聞き取り調査を行い、把握に努め、希望があれば一緒に買い物に行く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、順番であるが、散歩は実施している。公園やドライブに連れて行っている。	日常の外出は、利用者の体調や天候に合わせて、近くのスーパーでの買い物や公園の散歩に出かけている。堺市役所の21階や古墳・長居公園・心齋橋等へ遠出している。利用者・家族に大変喜ばれている年1度の日帰りバスツアーを、医療連携機関と協力して、今年も秋口に企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関して、入居者には管理が難しい為、家族に管理していただいている。本氏が必要な物がある場合、施設が立て替えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がある場合や電話を掛け、声を聴かせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアは季節感を感じ取れる様に、飾りつけなど配慮し、入居者の作品を飾っている。	食堂兼リビングは広くて明るく、テレビの前は利用者が寛いで過ごせる場となっている。壁面には共作の飾り物や利用者の習字、イベント写真が飾っており、季節を感じる場所となっている。又壁に架空の「なごみ神社」の鳥居を作り、利用者各々が願い事を書いた絵馬が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が穏やかに過ごせる様に配慮している。 リビングにテレビやソファを設置したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など入所時に一緒に買い物に行き、選んでいただいている。 お金は施設持ち。希望があれば、テレビを御貸している。 また、馴染みのある小物等、お部屋へ持ち込んでいただいている。	居室は広くてゆったりとしており、クローゼット・洗面台・空調が設置されている。利用者は、家庭で使い慣れたベット・テレビ・タンス・家族の写真等を持ち込み、家庭の延長感のある、過ごしやすい場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活のお部屋やトイレ迄の導線について、職員間で話し合い、安全に生活出来る様に心掛けている。		